

2020年度 びわ湖トラスト親子環境学習講座 「megumiに乗船」実施報告書

- 後援： 大津市教育委員会、草津市教育委員会
 協賛： 公益財団法人平和堂財団
 概要： 環境学習船megumiに乗船し、琵琶湖の現状やプランクトンを観察。
 地球温暖化によって変わってきたびわ湖の様子を自分の目で見てもらう。

プログラム

		megumiA	megumiB
実施日		8月7日(金)	8月19日(水)
参加者		8組(16名) 子供8名、保護者8名	5組(11名) 子供6名、保護者5名
講師		滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 元特命研究員 (工学博士) 一瀬 諭氏	
スタッフ	平和堂財団	1名	—
	びわ湖 トラスト	理事 事務局	1名 1名
	ボランティア	5名	4名
行程		大津港→沖島→大津港	大津港→米プラザ→大津港 ※沖島渡船自粛の為変更

参加者は時刻通りに集まり、ソーシャルディスタンスに注意しながら乗船。予定通りに出航。

オリエンテーションの後、一瀬先生による講義が開始。生物多様性、食物連鎖等について学び、南湖（大津港）で先生が事前に採取したプランクトンをモニターから観察し、種類を確認。皆で発見したプランクトンを書き出していく。



大津港のゲートをくぐる



一瀬先生の講義



プランクトン観察について



南湖のプランクトン

途中、景色など見どころになると講義を中断しつつ、楽しむ。琵琶湖大橋を真下から見学したり、白髭神社を湖から眺めた。普段見たことのない角度からの眺めは新鮮だったようで参加者も記念撮影など各々楽しんでた。他にも沖の白石を一周回って見学することもできた。

沖島(8/7)、琵琶湖大橋米プラザ(8/19)到着前に昼食を取り、各々船からの眺めを楽しんでから上陸。



琵琶湖大橋を下から観察



沖の白石を眺めて



白髭神社



白髭神社をバックに撮影

沖島(8/7)、琵琶湖大橋米プラザ(8/19)到着後は北湖のプランクトン採取方法を実演しながら説明。バケツで何度も採水し、ネットですく過することにより、観察できるプランクトンの数を増やす。希望者数人が採取体験を行ったあとは各々自由行動。近辺の探索や親子の時間を楽しんでいただいた。

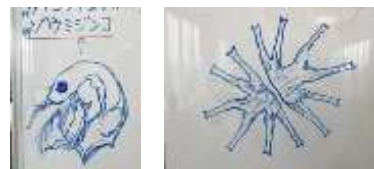
その後は顕微鏡でプランクトン観察。初めて顕微鏡を触る参加者にもボランティアなどが指導し、自らの目で発見するたびにプランクトン名を質問し、記入していた。



北湖プランクトン採取



顕微鏡でプランクトン観察



プランクトンスケッチ

(左) ソウミジンコ

(右) ハーディー



発見したプランクトン



北湖と南湖のプランクトン比較



北湖(青)南湖(赤)で色分け



今日の講義を終えての感想

最後に北湖と南湖で見つけたプランクトンを比較した。

また先生から、「帰ったらこれらのプランクトンを1つで良いのでスケッチしてください。」という宿題が出された。

コロナウィルス感染症についての影響と対策

- 小学校の夏休み期間が短縮されたため、7月実施分を8月19日に変更。
- 感染者増加の報道により8月9日以降、沖島町自治会から「渡船自粛」要請があったため沖島上陸を断念。8月19日実施分については上陸先を沖島から琵琶湖大橋港（米プラザ）に変更した。
- 密状態を防ぐため、募集人数を25組50名から10組20名にし、参加人数の縮小を行った。
- 抽選結果郵送時にコロナウィルス感染症対策に関する専用の案内を発送。事前の状態確認など自身で確認していただいた。
- 当日は受付時に全員検温。
- 講師はフェイスシールドを着用。スタッフも受付・配布時にゴム手袋を着用し、直接触れないよう努めた。
- 各テーブルに消毒液を準備。手指やテーブルの消毒はご自身で行っていただいた。
- 顕微鏡観察も手袋を着用し、直接触れることを避けていただいた。
- 船内と船尾の間の扉を常時開放し、換気に努めた。